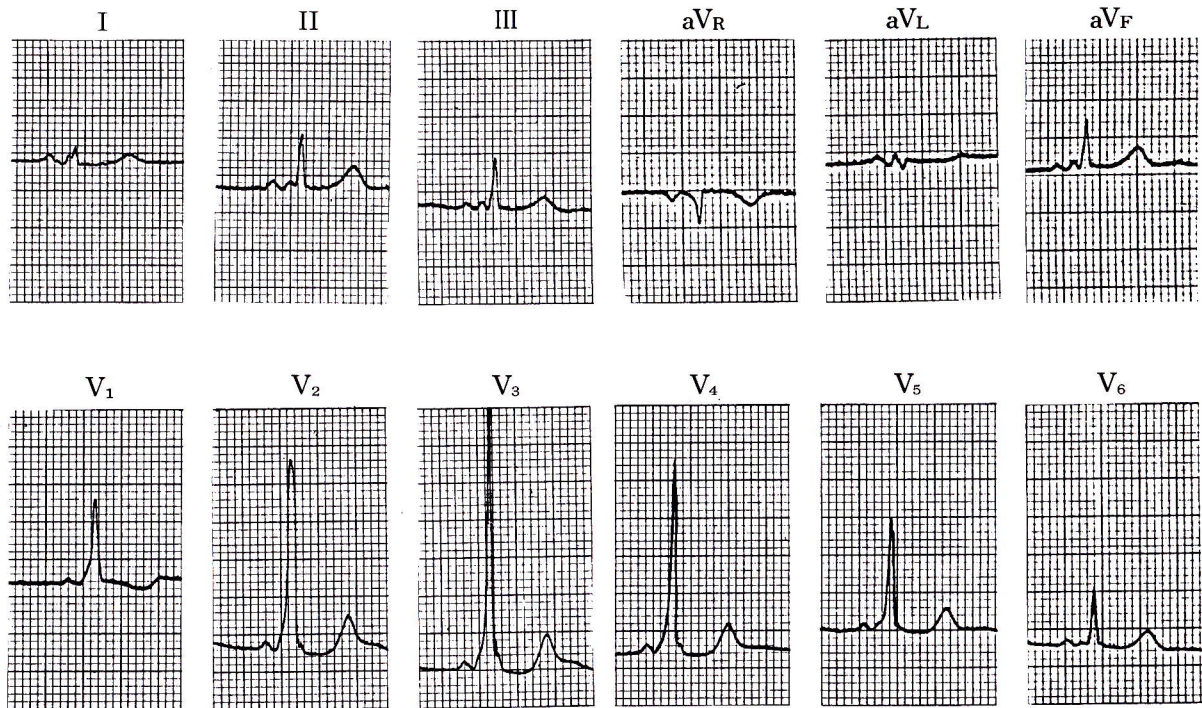


症例 33

●39歳 女

●検診で心電図異常を指摘され来院。



1) PQ時間はどうか.

2) QRS幅は正常か.

WPW症候群 (A型)

PQ間隔は、誘導により多少異なるが、0.08～0.10秒であり、0.12秒より短い。QRS幅は広く、0.12秒を超える。デルタ波（ δ 波）と呼ばれるQRS波の立ち上りにゆるいカーブをえがく部分がある。これらの所見は、WPW症候群

であることを示している。V₁で δ 波は上向きで、QRS波はR型であるため、A型のWPW症候群である。II、III、aV_FのP波が2峰性で幅広いようにみえるが、後の振れは δ 波であり、僧帽性P波ではない。

MEMO

〈WPW症候群とその臨床的意義〉

房室間の異常伝導路を通った刺激により心室筋の一部が興奮する状態である。この刺激は伝導がゆるやかな房室接合部を通らないため、より早く心筋に到達し（ δ 波をつくる）、遅れて心筋に到達する正常伝導路からの刺激と一緒に心室を興奮させる（融合収縮）。したがって心電図上の特徴は、PQ短縮（0.12秒以下）とQRS波起始部のゆるやかなカーブ（ δ 波）である。WPW症候群そのものは血行動態的には悪影響を及ぼさず、治療の対象とはならないが、異常伝導路と正常伝導路を介して興奮が旋回し、発作性上室性頻拍を起こすことが多い。

